



ご褒美は逆効果！？

「お片付けしたらお菓子をあげる」など、ご褒美でお手伝いを促していませんか？ 忙しい日々の中でついしたくなる声かけですが、心理学の実験では、物をごほうびにもらった子はその後自発的に手伝う確率が下がることが分かっています。幼い子どもの「手伝いたい！」という気持ちは、親と同じことをしたい純粋な意欲です。物をごほうびにすると「目的がおやつ」にすり替わり、本来のやる気が低下してしまうのです。

自主性を育てるお手伝いのコツは「一人でさせず、一緒に楽しむこと」「配膳や洗濯物運びなど、本物の家事の一部を任せて『役に立った実感』を持たせること」、そして「完璧さを求めないこと」です。上手にできなくても「ありがとう、助かったよ」と感謝を伝えることが、一番のごほうびになります。時間がかかったり失敗したりしても大丈夫。大人と一緒に家事を体験する豊かな時間こそが、子どもたちの「自分は役に立っている」という誇りと、将来の自立につながる自己肯定感を大きく育んでいきます。 園長 山田 裕宇記